

龍谷大学



企業・団体の社会貢献、CSR等の取組方針・取組状況

龍谷大学は、第3次長期計画の中で「社会に開かれた大学」としての役割を果たすことを重視し、「教育」「研究」という大学本来の使命に加え、「エクステンション（普及）」を本学の使命として位置づけました。第5次長期計画（2011年度～2020年度）では、大学の保持する資源を地域社会に還元・普及することで、地域社会の発展に貢献するとともに本学の教育・研究の発展に資するという理念のもと、「社会の要請に応じて、産業界や行政、NPO、NGO等と連携を図りながら、社会人等に対して、生涯にわたる多様な学びの機会を提供するとともに、研究や社会連携活動を通じて持続可能な社会形成に寄与する」との方針を掲げています。環境面においても地球温暖化対策推進委員会を設け、省エネ機器・設備の設置をはかるなど、エネルギー使用量の削減に積極的に取り組んでいます。



京都モデルフォレスト活動としての取組

環境サイエンスコースでは、現場での実習や観察により環境問題を学ぶ「環境フィールドワーク」という授業を設けています。この一環として竹林拡大の背景にある歴史、生活や気候の変化、環境への影響などを学生が体験し学ぶことができます。また、企業や市民ボランティアと一緒に活動することにより環境CSRの取組を学生が知ることも可能になります。

現在まで事前学習を行ったうえで、2011年12月、2012年5月、2013年2月の3回、環境サイエンスコース所属学生、竹林ボランティア、大山崎町との協働による放置竹林の整備を実施、作業終了後竹林ボランティアの方々との意見交換会を行いました。参加学生からは「竹伐りは意外に簡単で面白かった」「実習を通して竹林拡大の現状が分かった」との声が聞かれました。2013年の11月にはKDDI(株)と共同で天王山の森林整備を行う予定にしています。



モデルフォレスト活動への想い（感想、課題）

龍谷大学では学生の質向上に取り組んでおり、竹林整備を実体験できる教育の場として活用させていただくことは大変ありがたいことです。最近では、自然の中で動植物に触れた経験が乏しい学生も多いため、自分の身をもって自然を実感した上で竹林拡大のような社会問題を考えることは大変意義深いと考えています。

また、本学では「里山学研究センター」を設置し、地域資源（バイオマス）の利用、生物多様性の保全、環境教育、所有と管理の問題など、里山に関わる今日的な課題について、滋賀県大津市瀬田丘陵にある「龍谷の森」を利用し、総合的な研究を推進しています。この研究成果の一端を天王山の竹林・森林整備にも活かさせていただければ幸いです。



活動データ

◆企業・団体

名称 龍谷大学
所在地 京都市伏見区深草塚本町 67
担当部署 教学部

◆協定

締結年月日 2012年3月23日
締結メンバー 龍谷大学
大山崎町
京都モデルフォレスト協会

◆活動フィールド

所在地 京都府大山崎町、大阪府島本町
面積 188ha

